

日曜日

作 ラビンドラナート・タゴール

訳 内山真理子

げつよう かよう すいようび
月曜、火曜、水曜日、どの日も

すばやくやつて来る

その曜日たちのお家には

はやい乗り物があるのかしら。

けれど日曜日ときたら、ねえ、おかあさま

どうしてこんなに遅いのか

日曜日はえんりよがちにやってくる

ほかの曜日がみな来たあとに。

日曜日の家はどの日よりも

遠い空のかなたにあるのかしら

日曜日はおかあさまのように

つつましい家のむすめなのかしら。

げつよう かよう すいようび
月曜、火曜、水曜日は

つぎにすすむことばかり



この詩がのっている本
ラビンドラナート・タゴール 著
内山真理子 編訳
『お母さま』(未知谷刊) P136

お家にもどる気にも

ならないの。

日曜日にちようびは

せわしなく追おいたてられて

一時間いちじかんが

まるで三十分さんじゅうぷんのよう。

空そらのかなた 日曜日にちようびの家いえには

仕事しごとがいつぱい待まっている

日曜日にちようびはおかあさまのように

お家うちの仕事しごとが待まっている。

月曜日げつよう、火曜日かよう、水曜日すいようびは

みんなむつつり不機嫌ふきげんで

子どもこといつも

仲なかたがい。

けれど土曜日どようの夜よるが

すぎ去さると

日曜日にちようびの顔かおが

ほほえんでいるよ。

さようならをするとき日曜日にちようびは泣ないている

ぼくらの顔かおをじつとみて。

日曜日にちようびって、おかあさまのように

つつましい家いえのむすめなの。

詩集『童子ボラナート』所収